

# 第七回全國幼稚園關係者仙臺大會

—併せて、皇紀二千六百年大會ニ恒常的全國幼稚園機關の設置につき—

倉 橋 惣 三

全國幼稚園關係者大會は、大正四年八月三、四、五の三日間、當時お茶の水にあつた東京女子高等師範學校の講堂に於て創めて開かれた。今の日本幼稚園協會、當時のフレーベル會の主催であつて、時の東京女子高等師範學校長中川健二郎氏のフレーベル會長としての熱意を中心として、時の附屬幼稚園主事安井哲子氏始めフレーベル會幹部主としてその企劃に當り、余もその一人として微力を致した。當時は今日と違ひ、全國幼稚園の名簿さへ整つてゐない状態で、先づその下準備に多くの努力を必要とした。しかも、最初の計畫として、幼稚園關係者諸方面の多大の賛意共鳴を得、殊に時の文部省普通學務局長田所美治氏の賛同を得て、極めて盛會に、内容も亦相當充實することを得た。之れが全國幼稚園關係者の總集合の第一回である。但し、その際にも説が出て、嘗て大阪に開かれたことのあるのを以て第一回とすべく、實は第二回であるといふ考へ方もあつたが、尠くも斯うした名稱に於て、斯うした規模に於て開かれたのは之れを第一回とするが穩當である。

その第一回全國幼稚園關係者大會の決議として、同一の會を爾後四年目毎に、全国各地廻りもちの形に於て開催することに、次回開催地は前回會議に於て協議決定することに申し合はせた。即ち、特に一貫した全國的團結の母體を設くることは別の問題として、此の會合は申送り式に、開催地が次々に主催者となつて繼續してゆくこととしたのである。

そして、大阪、京都、岡山、名古屋、別府等に於て、それがしつかりに履行せられ、毎回非常の盛會を呈し第一回をして隔世の感あらしめ來つた。此の他に、臨時的に、それ／＼の機會に於て全國的集會が開かれたことも一再ならずあつたが、此の全國幼稚園關係者大會は、全國幼稚園關係者の不文律的規約に於て、一貫せる行事として守られ來つた。而して、その第七回が今月七、八日兩日を期し、仙臺市保育會主催の下に開催せられやうとしてゐるのである。

此の會は、主催地に於て、相當容易ならぬ下準備と斡旋との勞を要する。それは、實際に當つたものでないに察し得られない程である。しかも、平生から、保育の諸種の大きい會合を行ひ來つてゐる關西地方と異つて、從來此種會合の行はれることの少なかつた仙臺として、一層の御苦勞を想はずにはゐられない。われ／＼は開會の日に先だつて、仙臺市保育會長澁谷仙臺市長始め事に當られた諸氏の勞を多し、先づ其點に甚大の感謝を捧げたい。

仙臺大會は、その全國的意義に於て、他の場合と素より何んの變りもない。しかし、極く實際に即して考へられることは、それが東北日本を代表するといふ點に於て、特に意義深いものがあるのである。萬事あからさまに言ふことを許されるならば、我國の保育界の現状は、その普及の度に於て西日本と東北地方とは大に相違がある。素より東北にも個々の幼稚園として、篤志の個人として、その優秀他に譲らざるものゝあることは言ふまでもないが、全般的に、社會的に見て、之れから大に發展に努力を要するに過ぎない。仙臺大會は、之れに一大刺戟を與へ、一大轉機を與ふるものとして、吾人の期待に極めて大なるものがある。われ／＼が、特に此の會の爲に疾く關心をもち、その成功のために祈つて已まないのもその爲である。又全國幼稚園關係者各位に、此の會への一大協力を勸請して已まぬのも此の爲である。さて、此の大會に於て、何が議せられ、何が研究せらるべきかは、その日の樂しみとすべきであるが、時局に即して、大に緊張せる内容の盛らるべきは、豫想するに難くない。而して、その中には、來昭和十五年の皇紀二千六百年を期しての祝典幼稚園大會が、いづくに於て、如何に舉行開催せらるべきかは、當然打ち合せらるべき緊急事項であらう。それに

就て、帝都東京さいふこも當然考へられることであり、東京側に何んもなく、その心構へもなしとしないのであるが、過般の關西保育大會の希望としては、明年の特別の意義に基いて、檀原を中心として開催したいといふ強い申出が用意されてあり又、既に、その準備も進められてゐるさいふこもを聞くのである。之れ亦、實にその意義あるところに對して、何人も疑ひを挾まないであらう。吾人は一つに、仙臺大會全會集の隔意なき相談が、皇紀二千六百年幼稚園大會を、その最も適切なる方法に於て實現するに至らんことを望んでゐる。

次に、同じく皇紀二千六百年の記念事業の一つとして、全國幼稚園關係者の恒常的大同團結機關を確立せんとする案があつて、之れも先般の關西保育大會に於て、吉備保育會長國富友次郎氏の提案となつて現はれてゐる。之れに就ては、それ〴〵具體的研究も攻究されてゐることと思ふし、仙臺大會に、謀られることではないかと思つてゐる。而して、此の趣旨に就ては何人も異議のありやうはないことであつて、吾人も大々の賛意を表するものである。たゞ從來、此の種計畫は一再ならず行はれて、充分現實化せざりし遺憾なる經驗を有してゐる。今回は、充分周到なる方法によつて、是非さもしつかりと實現せられることを切望して已まぬし、又、實現せられなければならぬのである。而して、之れが爲に最も必要なる要件は幼稚園關係者各自が、全國的關心を強持すること、その發展のために、各自の立場を後にして、無私協同の實に就くことである。吾人は此の爲に、從來の既存全國的團體は寧ろ無關係に、先づ純地方的保育團體を基礎として、眞に歸納的方法による、堅實なる細胞的盟約に出發することを、最も賢明なる方式なりと信するのである。

終りに、仙臺大會の成功を重ねて心より祈る。